

GPS 安全性要約書

サニゾール C

この製品安全性要約書は、一般社会へ化学物質の安全性情報の概要を提供するものです。この文章は、サプライヤーから提供される、用途毎に推奨される詳細な安全措置について記載されている安全性データシート (Safety Data Sheet) に代わる文書として作成されたものではありません。また、製造者から提供される、この物質を含む消費者製品の使用説明書や警告に代わるものとして作成されたものでもありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいておりますが、いかなる保証をなすものでもありません。

1. 物質の特定名

商品名： サニゾール C

化学名： アルキル (C 1 2 - 1 6) ベンジルジメチルアンモニウムクロライド

CAS 番号： 68424-85-1

2. 使用・用途と適用

サニゾール C は陽イオン性界面活性剤です。柔軟剤、住居用洗剤等に使用されています。サニゾール C は産業用途としては、主に殺菌剤・消毒剤・防腐剤・抗菌剤として使用されています。

3. 物理化学的特性

サニゾール C に物理化学的危険性は認められません。

特性	値・性状
物理的状態	液体
色	無色透明
臭い	わずかな (若干) 特異臭
pH	7.8 (原液)
密度	0.989 g/mL (20°C) 0.983 g/mL (30°C)
融点 (流動点)	-4.5°C

沸点	102°C
引火点	検出せず
燃焼又は爆発範囲	情報無し
自然発火温度	情報無し
蒸気圧	情報無し
水への溶解性	溶解
オクタノール／水分配係数 (LogKow)	情報無し
粘度	137 mPa・s (25°C)

4. ヒト健康影響

消費者：危険な濃度レベルでの暴露はありません。
 作業員：繰り返し暴露による毒性は示さないと考えられます。

アセスメント項目	結果
急性毒性：経口/経皮	飲み込むと有害です。単回暴露後に、特定臓器に対して毒性を示すことはありません。
刺激性/腐食性：皮膚/眼	未希釈部は強い皮膚刺激性を示します。眼に対する重篤な損傷の原因となります。
感作性	入手可能なデータから、皮膚感作性は無いと考えられます。
繰り返し暴露による毒性：	実際上、長期または繰り返しの経口暴露により毒性を示さないと考えられます。
遺伝毒性	入手可能なデータから、遺伝毒性はないと考えられます。
発がん性	入手可能なデータから、発がん性はないと考えられます。
生殖発生毒性	入手可能なデータから、生殖発生毒性はないと考えられます。

5. 環境影響

魚類、水生無脊椎動物、藻類に対する試験結果から、サニゾール C は水生生物に対する非常に強い毒性が示唆されます。また、長期継続的影響により水生生物に対する強い毒性が示唆されます。しかし容易に生分解されるため環境中には残留しないと考えられます。また、食物連鎖における濃縮はありません。

アセスメント項目	結果
水生毒性	水生生物に対する毒性が示唆されます。また、水生生物に長期継続的な影響が示唆されます。
生分解性	容易に生分解されます。
PBT / vPvB 注)	PBT/vPvBには該当しません。

注)

PBT = Persistent, Bioaccumulative and Toxic (残留性・蓄積性・毒性を有する物質)

vPvB = Very Persistent and Very Bioaccumulative (高残留性・高蓄積性を有する物質)

6. 暴露

消費者

消費者は柔軟剤等の使用によりこの物質に接触する可能性があります。これらの用途におけるサニゾール C の濃度は有害な影響が懸念されるレベル以下です。推奨される用途で使用される場合、常に使用前に製品情報を参照し、ラベルや能書に記載されている使用上の注意に従ってください。

作業員

サニゾール C の生産設備や多くの取り扱い設備では、作業員がこの物質に暴露される可能性があります。また、この物質を取り扱うメンテナンス、サンプリング、テストやその他の作業においても暴露される場合があります。教育を受け訓練された作業員のみが、希釈されていないこの物質を取扱います。各製造設備では不必要な暴露を避けるためにゴーグルや手袋などの安全防具の設置と共に、作業員向けの訓練プログラムや適切な作業手順を定めています。作業員は **Safety Data Sheet** に記載されている応急措置に従う訓練を受けることが求められます。

環境

この物質は広範囲にわたり使用されているため、消費者用製品の使用に伴う排出に加え、製造、準備・取扱い・貯蔵、配合など工業的に取り扱う場所からも排水処理施設へ排出されます。しかしながらこの物質は容易に生分解されるため、排水処理施設において効率的に取り除かれます。排水中にわずかに残った場合でも、表層水中で生分解を受け、迅速に取り除かれます。従って、長期に渡る水生生物への暴露は起こりえないと考えられます。さらにこの物質は食物連鎖において濃縮されないため、環境経由のヒトへの暴露による悪影響も懸念されません。

7. 推奨リスク管理措置

化学物質を使用する際には、適切な換気がなされていることを確認して下さい。手や皮膚の保護のために適切な耐化学薬品手袋を常に着用し、眼の保護具を装着して下さい。化学物質の取扱い、処理、保管をする場所では、飲食・喫煙をしないで下さい。皮膚（または髪）に付着した場合、汚染された衣類を脱いでください。多量の水と石鹸で洗い、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けてください。眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗い、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けて下さい。直ちに医師に連絡して下さい。

この物質を含む排水は、この物質を除去するため、排水処理施設を通さなければなりません。大気中への放出は予想されないため、特別な措置は必要ないと考えます。

8. 法規制情報/分類・ラベル情報

GHS に基づき、化学物質はその物理特性、ヒト健康、環境への危険性に従って分類されています。この危険性の情報は、工業製品では、特定のラベルと **Safety Data Sheet** によって伝達されています。GHS では化学物質の暴露が想定される対象者（作業員、消費者、輸送業者、緊急時の対応者）が、扱う化学物質の危険性をより理解ができるように努めています。

サニゾール C には以下の GHS 分類が付与されます。

急性毒性（経口）	： 区分 4	H302： 飲み込むと有害
皮膚腐食性及び刺激性	： 区分 1	H314： 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
眼に対する重篤な損傷/刺激性	： 区分 1	H318： 重篤な眼の損傷
水生環境有害性（急性）	： 区分 1	H400： 水生生物に非常に強い毒性
水生環境有害性（長期間）	： 区分 1	H410： 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

また、上記の GHS 区分に応じて以下のラベルが付与されます。



注意喚起語 危険

製造、販売、輸送、使用、廃棄に関わる法令は、国や地域によって異なります。詳細についてはサプライヤーから提供される**Safety Data Sheet**を参照して下さい。

9. 結論

サニゾール C は水生生物に対する非常に強い毒性および長期継続的影響による非常に強い毒性が示唆されます。しかし、容易に分解されるため、環境へのリスクは無視できると考えられます。PBT/vPvBの評価結果から、この物質はPBT/vPvBには該当していません。また、未希釈のこの物質への接触は皮膚刺激性ならびに眼に対する重篤な損傷の原因となります。この物質そのものを取り扱う作業者は、標準的な安全管理手法に従い、**Safety Data Sheet**を参照する必要があります。消費者はこの物質そのものには接触せず、希釈された状態で使用されることから、ヒト健康に有害な影響を及ぼす懸念は無いと考えられます。

10. 連絡先

この物質・安全性要約書に関する、詳しい情報については以下にお尋ね下さい：

会社名、部署	花王株式会社、ケミカル事業部門
電話番号	03-5630-7601
ファックス番号	03-5630-7964
電子メール	chemical@kao.co.jp

追加・関連情報に関しては、一般社団法人日本化学工業協会が提供する「化学物質リスク評価支援ポータルサイト」をご覧ください。

<https://www.jcia-bigdr.jp/jcia-bigdr/top>

11. 用語集

ハザード	ヒト健康や環境への有害性
GHS	化学品の分類と表示に関する国際調和
急性毒性	単回暴露による有害な影響
感作性	アレルギー誘発性
変異原性	遺伝子に変異をもたらす影響
慢性毒性	繰り返し暴露による有害な影響
生殖毒性	催奇形性、胚毒性及び、繁殖性への有害な影響
発がん性	がんを引き起こす作用影響
生分解性	環境における物質の生物学的分解性

生物濃縮性	環境における物質の濃縮性
-------	--------------

12. 発行日

2019年12月20日